
M君はエロ神！？

FISH!!

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

M君はエロ神！？

【Nコード】

N0078S

【作者名】

FISH！！

【あらすじ】

これは友人のM君について書いた物です。

（M君は架空の人物だと思っています、ハイ。）

つまらないとは思いますがぜひ読んでみてください。

三年生に進級とM君との出会い（前書き）

なんとなく書いてみました。

これは不定期更新になると思いますが、よろしく願います。

三年生に進級とM君との出会い

僕の友人M君は、とても気さくな人物で男子にも女子にも優しく、話し上手でいつも皆を笑わせている三枚目なキャラだ。

しかし、人間どこかに欠点はあるもので、M君の場合は性への関心が“エロイ”という域を超越し、変態の域に達してしまっているのだ。

その変態さは本人も自負しており、

「俺はエロ神だ!!」

「俺はエロトマニア（性欲異常）だ!!」

「夏休みに女性に不埒な行為をしまくるぜえっ!!」

などの言葉を恥ずかしげもなく言うのである。

しかし、女性に興味がある、というような事を常日頃言っているにもかかわらず、何故か、本当に何故か、僕や僕の友人U君のお尻や股間を触ってくるのだ。これは何故なのか。

彼は女性が好きではないのか。それとも、本当は男性の方が好きなのか。

“阿部さん”や“アニキ”が大好きなのだろうか。分からない。全く分からない。

彼がどのように考え、行動しているのか分からない。彼は悪い人物ではない、いや、どちらかといえば皆に好かれている。僕も彼の事は嫌っていない。

しかし、その部分だけが、どれだけ考えようと答えが、理由が、分からないのである。

彼とは1年ほどしか共に過ごしてないが、これから何年も共に過ごせば答えが出るとは思えない。

彼のこの行動は何なのだろうか．．．．．分らない。
とりあえず彼の行動を日記風に書いてみた。
まずは中学三年生になった四月の話だ。

四月五日（詳しい日にちは覚えていない）

この日僕は中学三年生になった。最初は新しくなったクラスで不安だったが、友人のU君や、N君が同じクラスだったのですぐに不安は無くなった。

そしてU君と話をしていたら、同じクラスになったM君が話し掛けてきた。

彼は二年生の時にU君と同じクラスだったらしく、U君とは特に仲が良かったらしい。

その事もあって、たった一日で仲良くなった。

それと先程説明した通りで、M君は気さくでいい人だったのでそれもすぐに仲良くなれた要因の一つだと思う。その日の学校が終わり、帰り道が一緒なU君と帰っているとU君が突然、

「いいか、Mには気を付けろ。あいつには本当に気を付けろ！仲良くなりすぎたら後から後悔するぞ！！」

と言ってきた。その時は何をバカな事を言っているんだU君は。

M君はいいやつじゃないか、彼の何処に気を付けると言うんだ、と思っていた。そう、その時は彼の本性に気が付いていなかった僕はそう思っていた。

僕はこの時の自分はバカだったと、ちゃんとU君の忠告を聞いていればという後悔でいっぱいだ。

そして彼の本性が表れたのが四月二十日辺りからだった．．．．

・

四月二十日（この辺りぐらいだったと思う）

この頃から彼のエロい部分が少し出ていて、僕やU君、N君に必要異常にそう言う関係の話をしてきたり、体に触ってきた。その当時は僕達とより仲良くなりたくってスキンシップをしてきて、年頃だからHな話をしたくなるだけだと僕は思っていた。いや、そう思いたったただだったのかもしれない。

だが五月に入るとM君の行動はさらにエスカレートしていくのだった……

三年生に進級とM君との出会い（後書き）

どうでしたか？

楽しんでいただけたなら幸いです。

不幸の前触れだったのかもしれない……

五月二日

体育の授業を受けるために体操服に着替えていると、M君はいきなり僕の股の間を

「ウヒョ！」

と言いながら触ってきた。さすがにこの行動はやりすぎだと思いM君を注意したが、M君は全く反省しなかった。

M君はこの日から体操服に着替える時に僕やU君の股の間を触ってきたり、胸の辺りを触ってくる様になった。

一時期はゲイやホモなのか疑ったくらいスキンシップが激しかった。実は言うところでも僕は疑っている。多分これを読んでいる人も、M君が僕達にした事をされたら死ぬまで疑い続けるだろう。

五月十日

もうすぐある修学旅行の回る班決めや、ホテルに泊まるメンバー決めがあった。僕達はすぐに仲の良いメンバーで決まった。

メンバーは、僕、U君、N君、その他三人だった。

最初は仲の良いメンバーで決まって良かったと思っていた。

だが、その考えは修学旅行当日のさまざまな出来事によって変わってしまった。確かに仲の良いメンバーで決まって良かったが、一人極めて危険な変態が居た事が駄目だったという考えに……。

不幸の前触れだったのかもしれない・・・（後書き）

クラスにこんな奴一人はいるよね〜。
えっ、何？こんな奴は居ないって？

やっぱりですか〜（笑）

新幹線では止めなさい！（前書き）

二ヶ月ぶりぐらいの更新だね。

ではどうぞ！

新幹線では止めなさい！

五月二十日

ついに修学旅行当日だ。

修学旅行先は長崎で、僕は行ったことが無いので凄く楽しみだった。多分この修学旅行は今までの学校行事の中の一番になるぐらいの思い出になるだろうと僕は思っていた。

勿論楽しい意味での一番になると思っていた。

だけどこの修学旅行は別の意味で一番になる事になった。

そう、あのM君のせいで僕の修学旅行は滅茶苦茶にされる事になったんだ……………

まずは新幹線の中の出来事だ。

僕とU君とN君、そしてM君とその他二人で向かい合いながら席に座っていた。これはこの前組んだ班のメンバーだ。

最初は特に不満などは無かった。仲のいいメンバーだったからだ。でもやっぱり後からある一人だけは居なくても良かったと思う。

皆さんお察しの通り、M君の事だ。

彼も最初は大人しかったのだが、だんだんとテンションが上がっていき、やはり変態的な行動を取り出す。

この変態的な行動はあまり語りたくは無いので省かせてもらう。

皆もテンションが上がっていたのだが、彼の変態的な行動によって班のメンバー全員のテンションが一気に下がってしまった。

勿論僕のテンションも一気に下がってしまった。

でもM君はいくら変態的な行動をとっても女子には人気なのだ。

何故人気なのか気になった僕は女子に質問をした。

そして分かった事が、女子には面白い奴とか思われているらしい。

どうやら周りから見れば皆を笑わせる為にやっているように見えるらしい。

前にも言ったがM君は、とても気さくな人物で男子にも女子にも優しく、話し上手でいつも皆を笑わせている三枚目なキャラだ。

だからその変態的な行動も周りから見れば皆を笑わせる為の行動に見えるのだろう。

でも被害を受けている僕達にとってこの行動は、ホモやゲイの部類の人間が僕達に迫って来ているようにしか感じれない。

そんな僕達はある事に気がついた。

ホテルや旅館でM君と一緒に部屋で大丈夫なのか？もしかしたら襲われるんじゃないか？それじゃ安心して寝れないんじゃないか？という事に。

僕達はそんな不安を抱えながら、変態的な行動をしてくるM君の事を思いきり叩いていた。

ちなみに僕達がM君を叩いている時、M君の顔はもの凄いい笑顔だった……。

新幹線では止めなさい！（後書き）

間違いの指摘、感想、アドバイスをお待ちしております！

バスの中・・・

新幹線から降りた僕達はバスに乗り込んだ。

席は僕とM君、U君とN君が隣同士だった。

僕はこのバスの席を決める日に風邪で休んでいたので他のクラスメイトが「あいつMと仲がいいから隣にしていればいいだろう？」とか言っ
て勝手に決めていた。

僕はこの席にはちよつと納得がいかなかった。

M君が隣だったら、絶対に変な事をやってくるじゃないかと思った
からだ。

でも今更席を替わってくれと言っても替わってくれる訳がない。

さすがのU君やN君も替わってはくれないだろう。

僕は諦めて大人しくM君の隣に座ることにした。

M君も最初は大人しかったんだ。まあ多少は変な事をやってきたけどそれは平気だった。でもバスでのレクリエーションで歌を歌ったり、クイズをしていると段々とM君は壊れていつて、たまたま持ってきていたCDに入っていたあるアニメの歌をいきなり歌い始めた。その曲名は”チク。ク。B。ック”、知っている人も知らない人もいると思うが、これは決して修学旅行のバスの中で歌うようなものではない。

僕は個人的には好きな歌だ。理由は面白いから。

でもこの歌はこの歌を知っているか、この歌を知らなくてもこの歌の面白さを理解してくれる人の前だけで歌うものだ。

それをM君はなんのためらいも無く歌い出した。

皆はかなりドン引きして、今までかなり高かったテンションもがた落ちしてしまった。

これはかなりの批判がくると思った。

だが僕の予想は外れて、

「まあ、Mだから仕方がないよな。」

「Mだしなあゝゝ。Mにぴったりの歌だったしなあゝゝ。」

と言われただけで済んでいた。これには僕とU君とN君もかなり驚いた。

今M君はクラスのテンションを一気に下げるといふ最低な事をしたのだ。

M君はかなり批判され、殴られてもおかしくない事をしたのだ。なのに皆「Mだからなあゝゝ。」と呟くだけだった。もはや皆、M君の事を諦めているのだろうか？

それともM君のそういう行動を認めているのだろうか？

僕はその事で悩みながらM君がしてくる変態的な行動を防いでいた。

後、M君が斜め後ろの女子のパンツを覗こうとしていたのも僕は全力で止めた。あの時の僕は凄くいい働きをしたと今でも思う。

バスの中・・・（後書き）

間違いの指摘、感想、アドバイスをお待ちしております！

M君はエロ神！？（前書き）

久しぶりの投稿です。

M君はエロ神！？

まず最初にバスが向かった場所は水族館だった。

別に長崎まで来てまで水族館に来たいとは思わなかったが、仕方がないので見て回る事にした。

最初は全員でイルカのショーを見た。

その時にM君はいきなり「今の俺にはあの雌イルカが超絶美少女に見えるぜえ．．．．。」とか意味が分からない事を言い出した。

正直頭大丈夫かお前？と思ったのは僕だけじゃ無かったと思う。

しかも僕に向かって、「お前にも見えるだろお。」と言ってきた。M君はバカなのだろうか？自分で言うのもあれだけど僕はM君と違って普通の少年だ。

だから僕にはただのイルカにしか見えない。

なので、僕はM君に「見えないに決まっているだろ。」と言ってM君の近くを離れた。

その後、U君とN君に近づいて僕に言った同じ事を言っていた。どうやらU君とN君にもイルカが超絶美少女に見えたらしく、三人で盛り上がっていた。

僕には三人が言っている事が理解出来ないなので、僕は会話に参加しないで他の友達と喋って時間を潰す事にした。

でも本当に驚いたな、まさかU君とN君がM君と同じ考えの持ち主だったなんて．．．．。

これは以外だったな。いや、さほど意外ではなかったかも．．．．。

あの三人、たまに似たような話をしていたから．．．．．。

そんな事を考えながら他の友達と喋っているとイルカのショーが終わった。

その後は自由時間になったので四人で中を見て回る事にした。
僕は特に興味が無いので楽しくはなかったけど三人は楽しそうだった。

魚を見るだけで盛り上がれるのはやっぱり修学旅行でテンションが上がっているからなんだろうか？

僕は三人と見て回りながらそんな事をずっと考えていた。

最終的には三人はあの魚を擬人化したらどんな美少女になるかを話していて盛り上がっていただけだと分かった時に「ええ〜！？」と叫んでしまった僕はおかしくないはずだ。

その後はフェリーに乗ったりしたけど特に何も無かったので書くまでもいいだろう。

フェリーから降りるとバスに乗り込んでその日泊まるホテルへと向かった。

M君がまたバスの中で暴走しそうになった。
本当に勘弁してほしいと思った…………。

M君はエロ神！？（後書き）

間違いの指摘、感想、アドバイスをお待ちしております！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0078s/>

M君はエロ神！？

2011年10月8日16時57分発行